令和６年度
宇都宮大学共同教育学部
学校推薦型選抜Ⅰ（Ａ）　試験問題

小　論　文

学校教育教員養成課程　人文社会系　社会分野

令和５年１１年２５日（土）

９時００分～１０時３０分

注　意　事　項

１．試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
２．「受験番号」は、解答用紙の受験番号欄に忘れずに記入すること。
３．この冊子には、２問題がある。乱丁、落丁、印刷不鮮明の箇所があった場合には、申し出ること。
４．解答用紙は、２枚ある。解答は、必ず解答用紙の所定の解答欄に記入すること。所定の欄以外に記入したものは、無効である。

第１問　　下の三つの図を見て、問題文を読んだのち、その問いに答えよ。

図1　世帯類型の割合（%）

この部分は、著作権の都合上、公開できません。

図2　世帯類型別世帯数の推移

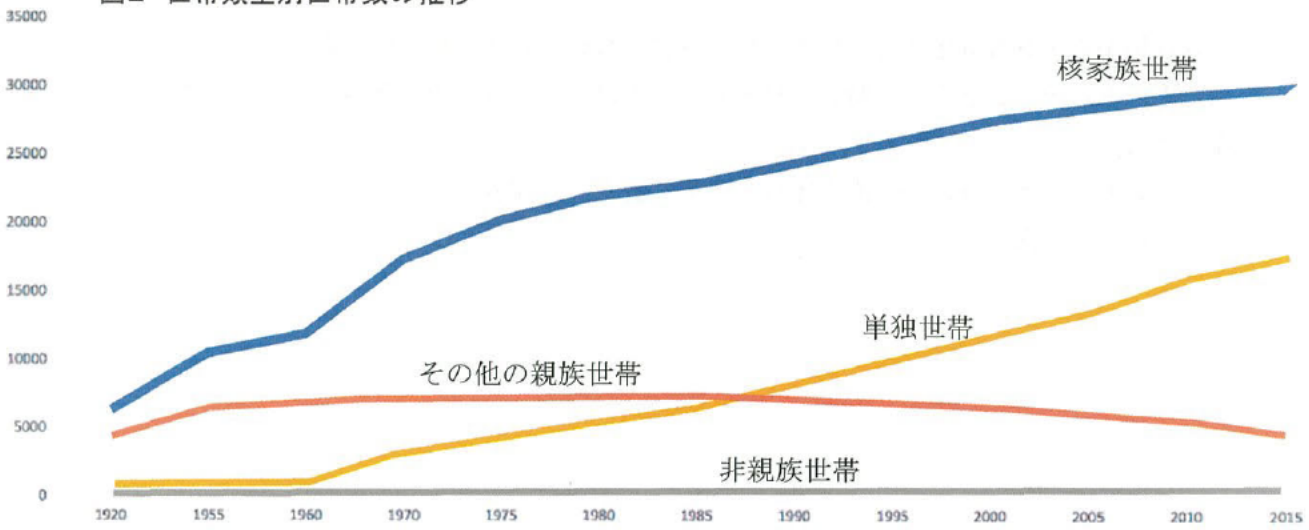
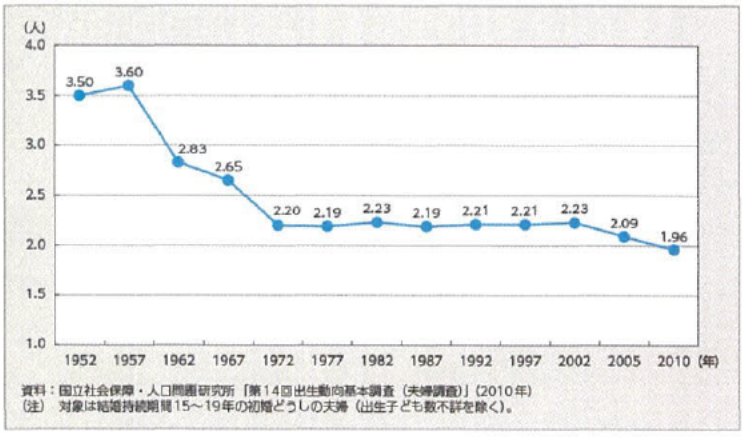


図１は講談社現代ビジネス HP　広井 多鶴子 2018.04.02「『核家族化が進んでいる』は本当か？ データから徹底検証」より　https://gendai.media/　より

図２は上記に基づき出題者が作成

図3　結婚持続期間 15～19 年夫婦の平均出生子ども数



平成２７年厚生労働白書より

中学校の公民の教科書を見ると、「この部分は、著作権の都合上、公開できません。」（日本文教出版『中学社会　公民的分野』）と述べられ、戦後、核家族化が進んだと言われる。一方、伝統的には日本は直系家族といわれるタイプの拡大家族が一般的だったと言われる（加藤 2009「直系家族の現在」）。直系家族とは、子どものうちの一人が結婚後も親と同居する家族形態である。

しかし上の三つのグラフを見ると、三つのことに気づく。

第一に、図１をみると核家族世帯の割合は１９２０年から２０１５年までの９５年間でずっと安定して６０％程度であり、ほとんど変動していない。１９７５年に６３．９％のピークを迎え、その後微妙に減ってさえいる。

第二に、図２を見ると、核家族の世帯数は確かにこの時期増え続けている。ただその一方で、図２の「その他の親族世帯」つまり夫婦と子ども以外の親族のメンバーを加えた拡大家族の世帯数は１９５５年から１９８５年までの３０年間ほぼ一定値を保っている。

第三に、図３を見ると、１９７２年以降、結婚から１５年以上たった夫婦の子どもの数はほぼ二人で安定しているが、それ以前はきょうだい（＝兄弟姉妹）の数が多かったことがわかる。

これらのデータに基づき、次の問いに答えよ。

問　１９５５年から１９８５年まで、拡大家族の世帯の数は減らず、核家族の数が増えていったのはなぜなのか論じよ。またそのことより当時の「核家族化」とはどのような現象だったのかを、次の語句を全て用いて説明せよ。

核家族　拡大家族　きょうだい　直系家族　長男・長女　核家族化

（合わせて３００字以内）

第２問　次の２つの文章①・②を読み、下の問に答えなさい。解答は解答用紙に書きなさい。

①

この部分は、著作権の都合上、公開できません。

（ジャレド・ダイアモンド著、倉骨彰訳『銃・病原菌・鉄――万三〇〇〇年にわたる人類史の謎』上巻、草思社、2012 年より引用、一部改変・省略）

②

この部分は、著作権の都合上、公開できません。

（平川新『戦国日本と大航海時代―秀吉・家康・政宗の外交戦略』中央公論新社、2018 年より引用、一部改変）

問　15～16 世紀のヨーロッパの海外進出について、以下の語句をすべて用いて 400 字以内で説明しなさい。

大航海時代　スペイン　ポルトガル　オスマン帝国　アジア　香辛料　宗教改革　カトリック　プロテスタント